

確定日 令和3年8月18日

機 関 名	果樹試験場		課題コード	H230306		計画事業年度	H23 年度 ~ R2 年度	
						実績事業年度	H23 年度 ~ R2 年度	
課 題 名	ナシ・ブドウ・モモ・その他果樹の育成系統及び新品種の適応性検定試験(第4次)							
機関長名	上田仁悦			担当(班)名	品種開発部			
連絡先	0182-25-4224			担当者名	中澤みどり			
政策コード	3	政策名	新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略					
施策コード	2	施策名	複合型生産構造への転換の加速化					
指標コード	3	施策の方向性	秋田のオリジナル品種による果樹・花きの生産振興					
種 別	重点(事項名)		本県に適応性のある樹種・品種・系統の選定					基盤
	研究		開発	○	試験	○	調査	その他
	県単	○	国補		共同		受託	その他
評 価 対 象 課 題 の 内 容								
<p>1 研究の目的・概要</p> <p>ナシでは品種構成の是正を目的として有望な早生品種、省力低コストを目的に自家和合性・自家摘果性・耐病性等を有する新たな系統について選抜を行う。ブドウでは着粒の安定した良食味大粒系統について選抜を行う。モモでは早生品種や極晩生品種について、オウトウでは‘佐藤錦’の受粉樹になる良食味系統について、本県の気象条件での適応性を検討し、有望系統を選抜する。</p> <p>さらに、消費者ニーズの多様化や温暖化の進行に対応するため、本県のような寒冷地では栽培が困難であった樹種及び品種の適応性を検討し、本県果樹産業の発展を目指す。</p>								
<p>2 課題設定時の背景(問題の所在、市場・ニーズの状況等)及び研究期間中の状況変化</p> <p>本県の果樹栽培は、経営の安定化を目指して、リンゴとモモやオウトウ等を組み合わせる樹種複合経営が増加している。ブドウ産地では、依然として中粒種の生産が多く、消費者ニーズの高い大粒種の導入が遅れている。さらに、ニホンナシ産地は、‘幸水’主体であるため気象変動により経営が不安定である上、管理労力が集中するなどの問題が生じている。このため、今後所得の向上を図るためには、作業性を考慮に入れた品種の選抜が必要であり、樹種複合経営への対応、気象災害の回避、管理労力の分散と軽労化が図れる樹種や新品種が求められている。</p>								
<p>3 課題設定時の最終到達目標</p> <p>①研究の最終到達目標</p> <p>県内で産地化されているナシ・ブドウ・モモ・オウトウについて、品質や栽培特性、省力化及び気象災害等の危険回避といった観点から導入品種を評価し、適応性の高いものを選抜する。また、自然環境の変化(温暖化など)や社会環境の変化(高齢化など)に対応できる樹種についても同様に評価・選抜する。</p> <p>②研究成果の受益対象(対象者数を含む)及び受益者への貢献度</p> <p>(1)栽培農家(リンゴ、ニホンナシ、ブドウ、モモ、オウトウ生産者等)及び果樹栽培新規参入者 新品種導入により、気象災害等の危険回避、分散が図られ、安定経営が可能になる。また、省力樹種や品種の導入により経営面積の拡大が可能になる。</p> <p>(2)消費者 少量でも多品目(樹種、品種)を食べたい、という近年の消費者の要望に対応できる。また、同一の樹種であっても、早生、中生、晩生種と品揃えすることで、旬の期間を長く楽しむことができる。</p>								

4 全体計画及び財源 (全体計画において 計画 実績)													
実施内容	到達目標	28	29	30	R1	2	達成状況						
		年度	年度	年度	年度	年度							
系統適応性試験 (ナシ・ブドウ・セイヨウナシ)	本県の気象条件に適応性が高い優良系統の選抜						ニホンナシは54～58号は、「はつまる」、「凜夏(りんか)」、「ほしあかり」、「なるみ」および「甘太(かんた)」として、ブドウ安芸津30号は、「グロースクローネ」として品種登録された。いずれも本県に適応性が低かった。セイヨウナシは、検討中止により終了した。						
有望品種の適応性試験 (ナシ・ブドウ・モモ・オウトウ・スモモ・ラズベリー)	気象変動に強く、省力化が可能な優良品種の選抜						ニホンナシは2品種を適応性があり、3品種を普及性が低いと判定した。ブドウは4品種を有望と判定し、1品種を普及性あり、4品種を普及性が低いと判定した。モモは県南で旧盆前収穫の4品種を普及性が低いと、県北部で「川中島白桃」より遅い2品種を適応性ありと判定し、5品種を適応性が低いと判定した。オウトウは1品種を適応性が低いと判定した。スモモは、2品種を有望と判定し、1品種を適応性が低いと判定した。ラズベリーは、4品種を有望として選抜した。						
新樹種導入の検討と選抜	本県の気象条件で栽培可能な樹種、品種の選抜						イチジクは、耐寒性に優れる「バナーネ」を選抜した。カキは凍害の発生により試験の継続が困難となり、優良品種は選抜されなかった。平成28年度をもって試験終了とした。						
ニホンナシの新品種育成試験	自家和合性・自家摘果性・耐病性などを有する食味良好な系統の選抜						平成22年度までに1次選抜した10系統について調査したが、いずれの系統も育種目標を達成できないため淘汰し、交雑育種試験は平成30年度をもって終了とした。						
							合計						
計画予算額(千円)		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	5,000						
当初予算額(千円)		373	313	251	176	123	1,236						
財源内訳	一般財源	373	313	251	176	123	1,236						
	国費												
	その他												
5 研究成果の概要													
・成果の分類 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 解析データ、指針、マニュアル等</td> <td><input type="checkbox"/> 新技術</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 新品種</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> ステップアップ研究における中間成果</td> <td><input type="checkbox"/> 新製品</td> <td><input type="checkbox"/> その他</td> </tr> </table>								<input type="checkbox"/> 解析データ、指針、マニュアル等	<input type="checkbox"/> 新技術	<input checked="" type="checkbox"/> 新品種	<input type="checkbox"/> ステップアップ研究における中間成果	<input type="checkbox"/> 新製品	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 解析データ、指針、マニュアル等	<input type="checkbox"/> 新技術	<input checked="" type="checkbox"/> 新品種											
<input type="checkbox"/> ステップアップ研究における中間成果	<input type="checkbox"/> 新製品	<input type="checkbox"/> その他											
・最終到達目標の達成度・成果の具体的な内容 ・ニホンナシは10品種を調査し、「あけみず」、「彩玉」を適応性あり、3品種を普及性が低いと判定し、残りは継続調査とした。 ・ブドウは10品種を調査し、「多摩ゆたか」、「クイーンニーナ」、「ブラックビート」、「あづましずく」を有望、「オリエンタルスター」を普及性ありと判定し、4品種を普及性が低いと判定し、1品種を継続調査とした。 ・モモは県南部では旧盆前収穫の4品種を調査したが、いずれも普及性が低いと判定した。県北部では「川中島白桃」より遅い10品種を調査し、「晩生川中島」、「玉うさぎ」を適応性ありと判定し、5品種を適応性が低いと判定し、残りは継続調査とした。 ・オウトウは3品種を調査し、1品種を適応性が低いと判定し、残りは継続調査とした。 ・スモモは、3品種を調査し、「ハニーローザ」、「サマーエンジェル」を有望、受粉専用種として1品種を適応性が低いと判定した。 ・栽培管理が比較的容易で、かつ高単価が期待できるラズベリーは、夏果用品種では「ヒンボートップ」、「スキーナトップ」および「チルコチン」の3品種、秋果用品種では「ヒンボートップ」、「ヘリテージ」の2品種を選抜した。 ・イチジクは、秋田県南部の積雪地に適した一文字樹形で栽培でき、冬期間の耐寒性が高く、生産性が高い品種として「バナーネ」を選抜した。													
・成果の波及効果 ・ブドウの県内適応性が高い品種については、「シャインマスカット品質検討会」などで果実を試食してもらい、周知を図ってきており、「クイーンニーナ」の導入が増え、「ブラックビート」、「オリエンタルスター」、「あづましずく」の導入もみられている。 ・スモモでは、結実の難しい「貴陽」の補完品種として「サマーエンジェル」の導入が見られている。 ・ラズベリーは、キイチゴの産地化が見られ導入がみられている。 ・イチジクは、生食での利用として「バナーネ」の導入がみられている。													

【背景・目的】

①リンゴ産地

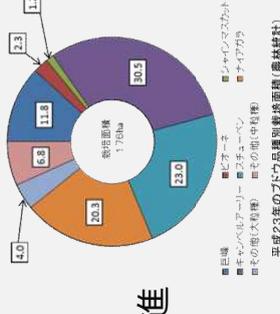
リンゴの価格低迷により、樹種複合経営が増加。
リンゴ+モモ、リンゴ+オウトウ等

※近年はモモとの複合経営が増加傾向



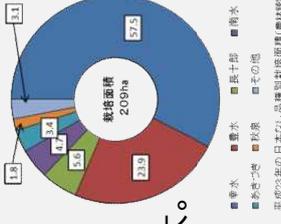
②ブドウ産地

‘キャンベルアーリー’等の中粒種を中心とした栽培が7割。
消費者ニーズが高い‘巨峰’等の大粒種導入が進まない。



③ナシ産地

‘幸水’が6割を占め、品種構成の偏りによる管理作業が集中。
異常気象で降霜害、降雹害、暴風等の気象災害リスクが増大。



【最終到達目標】

樹種複合への対応、気象災害の回避、労働力分散、軽労化が図れる樹種や新品種の選抜

【主な成果】

- ・ニホンナシ筑波54～58号は、「はつまる」、「凜夏(りんか)」、「ほしあかり」、「なるみ」および「甘太(かんた)」として、ブドウ安芸津30号は、「グロースクローネ」として品種登録されたが、本県に適応性が低かった。
- ・ニホンナシは「あけみず」、「彩玉」を適応性あり、3品種を普及性が低いと判定した。
- ・ブドウは、「多摩ゆたか」、「クインシーナ」、「ブラックビート」、「あづましく」を有望、「オリエンタルスター」を普及性ありと判定し、4品種を普及性が低いと判定した。
- ・モモは県南部では旧盆前収穫の4品種をいずれも普及性が低いと判定した。県北部では「川中島白桃」より遅い「晩生川中島」、「玉うさぎ」を適応性ありと判定し、5品種を適応性が低いと判定した。
- ・オウトウは3品種を調査し、1品種を適応性が低いと判定した。
- ・スモモは、「ハニーローザ」、「サマーエンジェル」を有望と判定した。
- ・栽培管理が比較的容易で、かつ高単価が期待できるラズベリーは、夏果用品種では「ヒンボートップ」、「スキナーナトップ」および「チルコチン」の3品種、秋果用品種では「ヒンボートップ」、「ヘリテージ」の2品種を選抜した。
- ・イチジクは、秋田県南部の積雪地に適した一文字樹形で栽培でき、耐寒性が高く、生産性が高い品種として「バナナーネ」を選抜した。



なつみず



クインシーナ



チルコチン



バナナーネ